

作家と政治、セックスの密接関係

ちやんとケアしなくては 女も、選挙民も裏切りますよ

田中 今度の選挙では、十数種類もの怪文書と称する代物が百万枚以上もまかれましてね。四流のエロ作家とか、女を食いものにする男とか。瀬戸内 投票前日にウチにもファクスが入って、田中先生がかわいそうです。怪文書が出回って危ないから、瀬戸内さん、仏様に祈ってくださいって(笑)。私は田中さんが



瀬戸内寂聴 田中康夫

立候補したら、女性票がすぐ集まると思ったの。でも意外に反発もあって、「どうして？」って聞いたら、お書きになつていけるペロ……グリ？

田中 「東京ペログリ日記」(月刊誌「噂の真相」連載、幻冬舎文庫)ね。女性とのデートを詳細に記し、永田町のいかがわしき、記者クラブの硬直ぶり、レストランやホテルのサービス、なんでもありの連載です。

瀬戸内 私は意味がわからなくて、うちの女の子たちに「何語かわからないよ。」

田中 はい、お姉さま。(笑)瀬戸内 もうひとつは、政治家になると、どうも人相が悪くなるの。石原慎太郎さんだって、昔は裕次郎さんよりも素敵だったのにね。だから私「政治家になって慎太郎は量産が落ちた」と書いたんです。そしたらずっと根を持ってね(笑)、彼はいったん政治家をやめて、またすぐに戻つたでしょう。お目にかかったら、「また悪くなった」と書くんですよ」と言つてました。それも氣をつけてください。それから田舎をなめてはいけません。田舎の人は素朴で純情だなんて、ウソですよ。

田中 アハハ、岩手県の人、怒り

瀬戸内寂聴さんは「男」を見る達人である。田中康夫さんのペログリ論にも、もちろんひるむことなし。それどころか、独特のエロス観で圧倒した。その寂聴さんが、田中康夫新知事にアドバイスする。「あなたはとても魅力的だけど、ちょっと太りすぎよ。」

田中 「おれにはカネと地位がある。うまいもの食わして、高い指輪も買つてやっただる」なんて男はだめ。自分が征服するばかりの男は、それこそ公共事業派ですよ。大きな橋さえ造れば地元は潤う、観光客は来ると、手前勝手に思い込んでい

田中 相手候補は初日の演説の冒頭でね、「ペログリ選挙、ペログリ選挙、こんな選挙ではいけません」だって。オリンピックの帳簿を焼き捨てた件は何ら問題なし、と公開討論会でも胸を張つた前副知事だからね、発言の重みが違う(笑)。ルサンチマン的団塊世代の編集者も昔からね、「こんなにモテるわけがない。だいたい、こんなにタフなはずがない。でも僕はウソがつけないからなあ。」

瀬戸内 小説家は本来ウソつきで

田中 それをね、少しずつ着実に変えていきたいんです。世間のイメージだと、長野は風光明媚で、教育県で、という感じですよ。ところが戦後、知事はたった三人しか出ていない。これではどうしてもよどみませんか。

瀬戸内 私もウソがつけられないから、岩手の人にもよく言つてるんです。田舎の人は貧しくて苦しくて、人を疑わなければ生きていけなかった長い歴史がある。もちろん今は田舎も変化していますが、その尾骸骨のような部分は残っている。疑り深い、排他的です。

田中 それをね、少しずつ着実に変えていきたいんです。世間のイメージだと、長野は風光明媚で、教育県で、という感じですよ。ところが戦後、知事はたった三人しか出ていない。これではどうしてもよどみませんか。

瀬戸内 そうよねえ。

田中 周囲は真つ暗な夜の七時過ぎ、北相木の集落に近づくと、なんと三分の一の家からお年寄りが出てきて、クルマから駆け下りた僕の手を握り締めて離さない。テレビの画面で見ていた田中康夫が来たからじゃないの。だって、「私が元氣な間に包み隠し事のない長野県にしてください」と涙ながらに語ってくれた。傲慢じゃないけど、民度は高い。お

ギロン堂



爺ちゃん、お婆ちゃんでも、自分の言葉で語れるんですから。

瀬戸内 私は長野が大好きなんです。もともと勤勉だし、向学心がある。そこにあなたが登場した。小説家が政治家になるのは、慎太郎さんにして、田中さんにして、とてもいいことです。なぜかというところ、小説家には想像力がある。今の政治家は想像力がなさすぎます。混乱混乱の時代の根源がわからない。少なくとも小説家には想像力がある。民衆の痛みがわかる。

田中 小説家には動物的な勘がありますね。立候補表明直後に石原さんは、「なだれ現象が起きる」「田中康夫には想像力がある」と言っていました。まあ、「いちおう作家の田中君」とも言っていたけど。(笑い)

瀬戸内 慎太郎さんのときは私は反対したの。あの人は小説だけ書いていけば本当にすごい作家になっていったから反対した。私の仏教の師匠の今東光師は、「先生がいちばん失敗したことは政治家になったことです」と言ったら、「そうじゃ、そうじゃ」と言っていました。だから私もずいぶん頼まれたけど、全部断って来ました。でも田中さんにはね、「政治をやらない」と思っています。慎

太郎さんは突然だったけど、あなたは今までいろいろと行動してきた。神戸の震災の活動もそうだし、小説を書く以外の要素がたくさんあるんですよ。

田中 元スポーツ選手、元政治家はいませんが、小説家に元小説家、元作家はいない。物書きは、その生きざますべてが作家の営為なわけですからね。そして優れた作家というのは、ほんの少しだけ人よりも時代を読み取るのが早い。だから、原稿料を頂戴できるんです。

瀬戸内 あなたは小説も書いて、「ペログリ」も書いて、そして知事さんになる。これは才能の幅が広いということなの。(京大の)浅田彰さんがね、自分は頼まれてもいやだけど、田中さんにはやれやれと言っていたでしょう。私もそれと同じなの。(笑い)。無責任な扇動者。

田中 白手袋もタスキも、万歳もダルマも無縁。お金がないから法定資金以内で収めるしかなかった。当たり前前の話ですけど(笑い)。だけど、県内各地で奮闘してくれたボランティア

イアの老若男女は数え切れない。僕としては、政治家の演説、政治家の流儀、そして、政治という言葉の概念も変えられたらと思いますね。

瀬戸内 知事公舎には住まないんですよ。

田中 そうなの。その「マラカニアン宮殿」を週末は県民に公開しようと思ってる(笑い)。僕がクジャクの着ぐるみを着て、ご案内申し上げます(笑い)。その後で有効利用を考えます。長野県民が本来持っていた、にもかかわらず一人ひとりの中で眠っていた潜在的な能力や意欲を、どう引き出そうかと思ってるんです。知事室を三階から一階に移して、月に二回はだれでも午後十五分ずつ直接話せる時間を設けます。全国で四番目の広さを誇る自治体ですから、各地へ僕が出かけ、車座になって語り合う集事も月に二回。

瀬戸内 あのね、仏様の耳は大きいでしょう。あれは、とにかく聞いてあげるからなの。聞いてあげるだけで相手はずいぶん救われる。辛抱が要りますけどね。そして、「原稿もあるし、早く帰ってこないかなあ」と思ってる聞かふりしていると、なかなか帰ってくれないのよ。覚悟を決めて本気で聞くと、三十分で帰って

くれるの。

田中 知らない、知らない。

瀬戸内 ペログリで登場回数が一番のW嬢さんとも結婚しないの。

田中 彼女は日本航空の客室乗務員です。最初は、僕が遠いところに行くような気がして反対だったみたい。でもすぐに、「神戸の住民投票のときの生き生きした表情を思い出すと、あなたは単に書くだけでなく、そうしたアンガージュエマン(行動派知識人)的生き方が合っている気がするわ」と認めてくれてね。長距離恋愛な男女は世間でも当たり前。それでいいわよ。まあ、彼女には時折、ダイアナ役を務めてもらおうと思っ

田中 最大の褒め言葉ですよ。

瀬戸内 ペログリったあとはちゃんとケアしないと、女は裏切ります。選挙民だつて裏切ります。

構成 本誌・村井重俊

作家の田中康夫が長野県知事選で圧勝した。

田中は松本深志高校の出身だが、作家になってからの長野県との結びつきは深くはない。しかも田中の文章は、政府、企業、メディア、人間を問わず、容赦なく斬り捨てており、また、月刊誌に、従来型の首長ならばりコールに結びつきそうな、それこそごく私的な女性とのつきあ

いをあらかじめ書き込んでいる。わたし自身はこういう破天荒さは歓迎だが、正直いってNHKと岩波書店の本を好む長野県民には反発を呼ぶのではないかと、不安を覚えていた。

もちろん田中は、ボランティアや市民運動に積極的に参加する、きわめて真面目な行動派人間である。だが、相手は、県議会で共産党を除く全会派が推す前副知事の池田典隆

の市町村長の推薦、各業界団体の組織ぐるみの票も手中に収めていたはずだった。

その大本命を、告示のわずか一カ月前に出馬表明した田中が、十一万票以上の大差で破ってしまったのだ。長野県民が、四十一年間も続いた県庁OB知事に飽き飽きして、ともかく「変化」、長野県を変えたいと強く感

じたのに違いない。実は、わたしはここ数年の間、長野県で二度ほど公開シンポジウムにコーディネーターとして出席した。七百〜八百人の県民を前に、長野県のことを問題なのか、冬季オリンピックで借金膨らみ、新幹線が開通しても景気が低迷するばかりで、将来展望のまるで見えない長野県をどうすればいいのか、自治体の研究でそこそ五指に入る学者や地域経済の専門家たちが顔をそろえて論じ合った。だが、主催者側が知事に何度出席していただきたと頼んでも、にべもなく断られたものである。

知事は、県民の前で長野県について論じ合うなんてことは、知事の仕事ではないと思込んでいたようだった。中央省庁あるいは大物政治家との間に太いパイプを持って、いかに公共事業などのカネを持ってくるか。それだけが知事の仕事で、県民とのコミュニケーションが必要などとは夢にも考えていなかったのだらう。そういう知事の時代が四十一年間も続いていたのである。

田中を、東京大阪の「青島・ノック現象」になぞらえて、長野県民の浮気だ、と言いつける

人々が、実は少なくない。「素人の田中には何もできやしない。長野県民も、東京、大阪の有権者たち同様に、遠くない将来、深刻に後悔せざるを得なくなる」というのだ。

だが、田中が青島幸男や横山ノックと違うのは、県の指定金融機関である八十二銀行の頭取や県商工会議所連合会の会長など長野県の経済界の幹部たちが、田中を強力に推した点だ。長野経済界の幹部たちも、「四十一年の延長では長野はダメになる」と苛立っていたのである。

それに、そもそも「青島・ノック」は失敗したのか。東京の青島は、一位を奪かしたとは思っていたが、知事になりたいなどとは考えておらず、都民より前に青島自身が後悔していた。大阪のノックはセクハラ事件で失脚したが、政治的に誤ったのではなく、だからこそうゆうと再選されたのである。東京の石原慎太郎、高知の橋本大二郎などはすでに実績を上げていた。地方が、中央とパイプの太い知事を選んで、口を開けて中央からのカネを待っている時代は終わった。地方が変わることで日本を変える時代が始まったのである。田中康夫ガンバレ!

田中康夫の圧勝は「浮気」ではない中央のカネ求める時代は終わった

田中 元スポーツ選手、元政治家はいませんが、小説家に元小説家、元作家はいない。物書きは、その生きざますべてが作家の営為なわけですからね。そして優れた作家というのは、ほんの少しだけ人よりも時代を読み取るのが早い。だから、原稿料を頂戴できるんです。

瀬戸内 あなたは小説も書いて、「ペログリ」も書いて、そして知事さんになる。これは才能の幅が広いということなの。(京大の)浅田彰さんがね、自分は頼まれてもいやだけど、田中さんにはやれやれと言っていたでしょう。私もそれと同じなの。(笑い)。無責任な扇動者。

田中 白手袋もタスキも、万歳もダルマも無縁。お金がないから法定資金以内で収めるしかなかった。当たり前前の話ですけど(笑い)。だけど、県内各地で奮闘してくれたボランティア

イアの老若男女は数え切れない。僕としては、政治家の演説、政治家の流儀、そして、政治という言葉の概念も変えられたらと思いますね。

瀬戸内 知事公舎には住まないんですよ。

田中 そうなの。その「マラカニアン宮殿」を週末は県民に公開しようと思ってる(笑い)。僕がクジャクの着ぐるみを着て、ご案内申し上げます(笑い)。その後で有効利用を考えます。長野県民が本来持っていた、にもかかわらず一人ひとりの中で眠っていた潜在的な能力や意欲を、どう引き出そうかと思ってるんです。知事室を三階から一階に移して、月に二回はだれでも午後十五分ずつ直接話せる時間を設けます。全国で四番目の広さを誇る自治体ですから、各地へ僕が出かけ、車座になって語り合う集事も月に二回。

瀬戸内 あのね、仏様の耳は大きいでしょう。あれは、とにかく聞いてあげるからなの。聞いてあげるだけで相手はずいぶん救われる。辛抱が要りますけどね。そして、「原稿もあるし、早く帰ってこないかなあ」と思ってる聞かふりしていると、なかなか帰ってくれないのよ。覚悟を決めて本気で聞くと、三十分で帰って

くれるの。

田中 知らない、知らない。

瀬戸内 ペログリで登場回数が一番のW嬢さんとも結婚しないの。

田中 彼女は日本航空の客室乗務員です。最初は、僕が遠いところに行くような気がして反対だったみたい。でもすぐに、「神戸の住民投票のときの生き生きした表情を思い出すと、あなたは単に書くだけでなく、そうしたアンガージュエマン(行動派知識人)的生き方が合っている気がするわ」と認めてくれてね。長距離恋愛な男女は世間でも当たり前。それでいいわよ。まあ、彼女には時折、ダイアナ役を務めてもらおうと思っ

田中 最大の褒め言葉ですよ。

瀬戸内 ペログリったあとはちゃんとケアしないと、女は裏切ります。選挙民だつて裏切ります。

構成 本誌・村井重俊

イラスト=ウノ・カマキリ